

もてた！！



# おひざのうえで

(副園長の子育ておうえん通信) (30年5月)

## 「 学びの物語としてのポートフォリオ 」



せんりひじり幼稚園

副園長 安達かえで

私たちがポートフォリオを始めて7年目になります。

子どもたちは日々の生活や遊びの中で、様々な物やことに向き合い、考え、思いを巡らせながら学んでいます。保育者は、子どもの側に寄り添い、子どもが何を感じ、どう育とうとしているのかを汲み取り、それを保護者の皆様と共有したいという思いで、ポートフォリオを毎月書くようになりました。

先週の土日に、園長と、仙台で行われた保育学会に参加してきました。大勢の研究者や指導者、そして現場の実践者が集まる中で、ニュージーランドのワイカト大学教授マーガレット・カー先生のご講演を聞くことが出来ました。ラーニングストーリーというニュージーランドの評価方法の開発者で有名な方です。「子どもの学びのポートフォリオを作ることは、保育者が子どもの成長と関心を追跡探究する上で効果的な方法で、家族にとっても子どもの学びの旅路に熱心に関わったり、自ら観察したことや思いを子どもが語る機会になる」と話されていました。

せんりひじりのポートフォリオの歩みを思い出しながら聞きました。こどもの「学びの物語」としてのポートフォリオを書くことで、保育者自身もそこに関わることの幸せを感じ、そして保護者の皆さんと共に、ひとりひとりの子ども自らが紡ぐ「学びの物語」を見守る幸せを実感しています。

にじいろ保育園屋上の砂場で遊んでいるときのことです。1歳児のAくんがホーローの重い両手鍋（砂遊び用）に砂をいっぱい入れて、両手で持とうとします。ところが重すぎて持ちあげられません。ずるずると押して引きずりながら進みます。進んでは持とうとし、持てないと引きずって運び・・・を繰り返していました。その姿をそばで見ていた保育者はこんな声をかけました。「おもいねえ〜」。保育者の顔を見て一息つきます。そしてまた、引きずっては持とうとします。5回ぐらいチャレンジしたでしょうか、足を踏ん張ってお腹でお鍋を支えながら持ち上げたのです。そして得意げに大好きな先生の顔を見上げます。すかさず「持てたね〜！！」という保育者の声。その瞬間の子どもの心にぴったりな言葉を大人が重ねることで、子どもは見守ってくれる大人と思いを共有でき、満足し、また次の遊びへとつながり育っていきます。小さな「学びの物語」ですが、子どもの育とうとしている姿を理解しているからこそその大人の関わりです。ポートフォリオに取り組んできた成果がこのような関わりにつながっていることを嬉しく思います。

今月も大妻女子大学の岡健先生をお招きしての園内研修がありますが、年に数回来ていただくようになって10年。様々な方法の園内研修を経て、保育者同士で子どもの姿や育ちを語り合う文化が根付き、子どもをより深く丁寧に見ていくことが出来るようになってきたと思います。

こどもの学びの物語を紡いでいくのは子どもですが、それを支える大人の力量が必要とされます。これからも質の高い保育を目指し続けていきたいと思えます。

.....  
(おひざのうで5月号) ご意見や感想があれば是非お書き下さい( 組 )( )